



2015フィリピンAPECでのプレゼンター4名(左から 日本サニテーションコンソーシアム事務局長 河井竹彦氏、フジクリーン工業株式会社代表取締役 渡辺嘉一、PetroVietnam Drilling Mud Corporation Mr.Nguyen Quang Hung、Project WET Foundation Mr.John Etgen)

2015フィリピンAPECにおいて、フジクリーンが 浄化槽の優位性についてプレゼンテーションを実施。

フジクリーンは、フィリピンで開催されましたアジア太平洋経済協力 (APEC) にてプレゼンテーションを行いました。これは、2015年9月1日、高級実務者会合の水環境改善部会にて実現したものです。この水環境改善部会は、13人のプレゼンターによって下水・上水を含めた水の水環境改善を考えるもので、フジクリーンは日本の浄化槽メーカーを代表して、浄化槽の優位性について紹介しました。



新興国の発展を予見しながら 日本の浄化槽メリットをアピール

現在、東南アジアの多くの地域では下水設備が整備されておらず、川に垂れ流しになった下水によって街に悪臭が漂っている所もあります。プレゼンテーションでは、そうした状況を受けて、今後アジアなどの新興国が発展していく過程で起こり得る水質汚染などの環境問題に対し、浄化槽を導入するメリットを紹介。日本が戦後、経済発展に伴って生活が豊かになる一方で、汚水処理の整備がされないまま水質汚染という環境問題を引き起こしてきた経緯を具体的に見せることで、これから新興国が直面するであろう問題をリアルに伝えました。

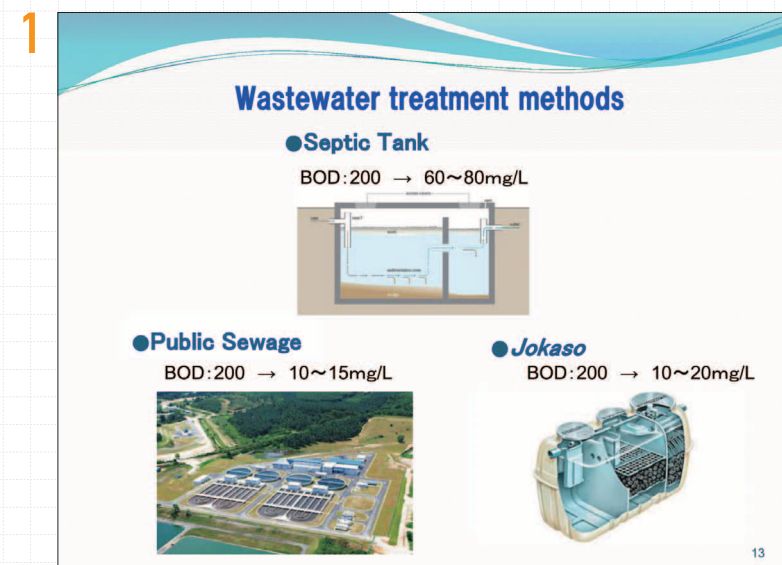
また、東南アジアで広く普及しているセプティックタンク (腐敗層) と違い、現在の日本の浄化槽はほぼ下水道と遜色のない浄化効果があること、さらに、コンパクトな形状で短い工期と少な

い費用で設置ができることから、今後のインフラ整備において利便性や経済性の面からまたいへん有効であることをアピールしました。他にも浄化槽の導入によるメリットとして、生活の向上や、衛生面の改善、そして雇用の拡大にも触れ、多くの関心が寄せられました。一方で導入の課題としては、法律の整備とメンテナンス体制の確立の重要性をあげ、水環境の改善へ向けた継続的な取り組みを訴えました。

新興国市場開拓事業の経験から 東南アジアでの浄化槽整備の効果を実感

今回、APECのプレゼンテーションに参加した背景には、2014年から2015年にかけて取り組んだ『経済産業省 新興国市場開拓事業 (技術実証を通じた相手国での新技術等の普及促進事業 (ベトナム・インドネシア・タイ等:我が国環境技術の見える

■プレゼンテーションで使ったスライドの一部



- 1: セプティックタンクと違い、処理後のBOD値が下水処理場と浄化槽がほぼ同等であることを示す
- 2: 設置やメンテナンスなど、日本では約20万人の雇用を創出していることを紹介
- 3: ベトナムハノイ市の市立イエンサー幼稚園への設置事例を紹介



化事業))』での実績が大きく影響しています。この事業は、日本が環境分野での海外市場の獲得をめざし、官民一体となって日本の優れた環境装置を新興国へ設置し効果を実証することで普及促進を図るためのものです。この事業の第1号にフジクリーンが選ばれ、ベトナムハノイ市の市立イエンサー幼稚園に浄化槽の設置を行い、浄化槽によっていかに生活排水がきれいになるかを示すことができました。設置後は現場公開を行い、白濁した流入水がきれいな水に処理されたことを目の当たりにした現地の事業者や政府機関の方々から、大きな驚きと賞賛が寄せられました。こうした経験から、改めて東南アジアでの浄化槽整備の効果や、現地の人々に日本の浄化槽技術を知ってもらうことの重要性を再認識し、今回APECというステージでアピールする機会を得ることになりました。

オーストラリア、アメリカから東南アジアへ フジクリーンの海外事業の新展開

フジクリーンは、10年程前から海外事業をスタートさせ、これまでオーストラリア、アメリカと展開してきました。先進国である両国は、すでに下水設備の普及率は高いものの、それぞれの認証制度を取得し、販売網の拡大に努めています。一方で、東南アジアでは法的な制度が充分とはいえず、急速な経済発展に下水設備が追いついていない状況です。しかし、法的に義務づけら

れていないからこそ、日本の浄化槽を製品だけでなく、施工から維持管理、法整備までの仕組みやルールをパッケージとして、輸出することができれば、東南アジアの水環境改善を早急に推し進めることができるかもしれません。

APECを好機として、より多くの国や人へ きれいな水環境を届けていきたい

フジクリーンは、APECへの参加を一つの契機と捉え、東南アジアへの事業展開を積極的に進めていきたいと考えています。APECの会場となったセブ島の海岸のリゾート施設には未だきちんとした汚水処理施設が整備されていないところもあります。美しい水辺環境を維持するためにも日本の浄化槽が効果的であることを、APECという国際的な場でPRできたことは、たいへん意義あることではないでしょうか。

東南アジア各国では、下水道の普及も期待されるところですが、下水道を設置するにはコストと時間が必要です。すでに水質汚染に悩まされている地域や、下水道の設置が困難な場所などで浄化槽を効果的に導入することで、迅速な水環境改善が期待できます。今回のAPECでのプレゼンテーションによって、これまで下水道が引けないからと諦めていた人たちに浄化槽という技術を認知いただくことで、より多くの人にきれいな水環境を届けられるきっかけになればと願っています。